

第2学年国語科学習指導案

対象：東京学芸大学附属世田谷中学校 2年生 140名

実施時期：2026年1月

授業者：阿部 由美

1. 単元名 運命の一首～百人一首の歌を味わう～

2. 単元の目標

- ①百人一首の成立背景を知る
- ②担当する和歌に詠まれた情景（内容）を理解する
- ③和歌とはどういう性質のものかを知る
- ④「占い」の視点で和歌を味わい、「おみくじ」を作つて自分の生活に還元する

3. 指導観

i. 単元観

和歌をはじめ短歌や俳句などの韻文教材は散文に比べて生徒・授業者ともに敷居が高いと感じがちだということが授業後や、現職研修の事後アンケートなどから伺える。今回の実践は現代語訳に終始しがちな「和歌」教材に「おみくじ」や「占い」の要素を付加することで、韻文学習に対する心理的な壁を低くしたい狙いを持つ。また、多くの生徒が宗教の有無に関わらず、行事や慣習の中で寺社に行き、おみくじを引くが、そこに和歌もしくは漢詩が記されていることを意識していない。おみくじは吉凶のみならず書かれている和歌にも意味があり、むしろ和歌の解釈こそが重要事項である。和歌を通しておみくじがそれを引いた人にどのようなことを告げているのかを考える視点をもたせたい。

百人一首は江戸時代、とくに天保から嘉永ごろにかけて流行し、そのブームの中で百人一首の注釈書や歌占本が刊行された。今回の授業ではこれに倣い、百人一首の和歌について一般的な訳を理解し、その後に占いたい対象をもつてその和歌に向き合った時、どのような解釈ができるのかを試したい。

和歌は本来であれば3年生で古今和歌集仮名序に始まり万葉集・古今和歌集・新古今和歌集に収載された作品について学ぶ。

- ・3年生の4月に修学旅行で京都に行く前に小倉百人一首について学んでおく方が、知識が根付くのではないかと思われること。
- ・年末から年始にかけての実践なので、正月の風物詩（百人一首かるた・初詣・おみくじ）と合わせることで生徒の興味関心を引けるのではないかということ。

今回は以上の理由で和歌の学習を先取りして行うこととした。

ii. 生徒観

自身の意見を述べることに街いがなく、感受性が豊かで他者の意見を受容する姿勢がある生徒が多い。前の生徒の意見を受けて自分がどう考えるかなどの意見交換も活発に行うことができ、大抵の生徒が作品の推敲のためのコミュニケーションが円滑にできる。その分、私語に逸れることがあるが、授業者の時間の管理次第、緩急の配分次第で楽しく授業を行うことができる。本単元でも「占い」の視点で和歌に向

き合うにあたり、どのような解釈でどのような作品が出来上がってくるのか期待される。

4. 単元指導計画（全 5 時）

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点
第1時	【百人一首・和歌の学習】 <ul style="list-style-type: none">・小倉百人一首の文学史的背景を知る。・生徒が担当する一首を決める。	<ul style="list-style-type: none">・予め 36 首を選定して籤を作つておく。(注 1)
第2時	<ul style="list-style-type: none">・図書資料を使って担当の一首について ①歌の解釈 ②歌を読んだ人物について を調べ、ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none">・学校司書と連携し、参考になる図書を準備する。1 人 1 冊手許に渡るようにする。・今回は図書のみの利用とし、出典の明記を必ずさせる。
第3時	【おみくじ・百人一首歌占の学習】 <ul style="list-style-type: none">・おみくじの歴史・百人一首歌占の歴史や意味、方法を知る過程で「和歌」がどういうものかを知る。	
第4時	<ul style="list-style-type: none">・担当の和歌で百人一首歌占みくじを作る。(個人作業) ①歌の意味を味わう ②挿絵を鑑賞する ③自身の生活と和歌の内容を照らし合わせ、短文にまとめる。	<ul style="list-style-type: none">・予めテンプレートを作つておく。(注 2)・占いようの和歌の解釈の例示をする。・吉凶に比重を置くのではなく、あくまで歌の解釈に主眼を据えるようにする。・和歌の詠み手の挿絵(注 3)も歌占の参考になることを伝える。
第5時	<ul style="list-style-type: none">・担当の和歌で百人一首歌占みくじを作る。(グループ作業) ①歌の意味を味わう ②挿絵を鑑賞する ③実生活と和歌の内容を照らし合わせて、短文にまとめる。	<ul style="list-style-type: none">・前時の活動と同様ではあるが、第4時に 1 人 1 首担当した和歌みくじを、今度は 4 人で同じ和歌で和歌みくじを作り、できあがった作品を鑑賞させる。・事前にどの歌で行うかを生徒に決めさせる。・和歌と挿絵のテンプレートを用意しておく。
第6時	<ul style="list-style-type: none">・実際に 4 クラス分のおみくじを引きあって鑑賞する。・学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none">・吉凶にのみ注目せず、そこに書かれた文言に意識を向けさせる。・forms でアンケートを作成しておく。

注 1：歌占に適した百人一首の和歌については成蹊大学平野多恵教授にご選定いただいた。(資料 1)

2025 年 7 月 31 日実施 S×UKILAM 連携教材開発第 10 回ワークショップの成果資料より転載。

https://adeac.jp/adeac-lab/iiif/iiif/sxx-ws10_grp01

注 2：おみくじテンプレートは同ワークショップで東京学芸大学学部生 掛川いろは氏がデザインしたもの

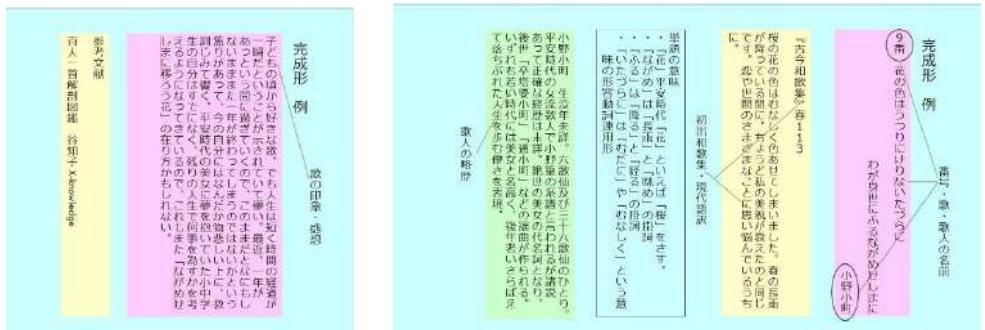
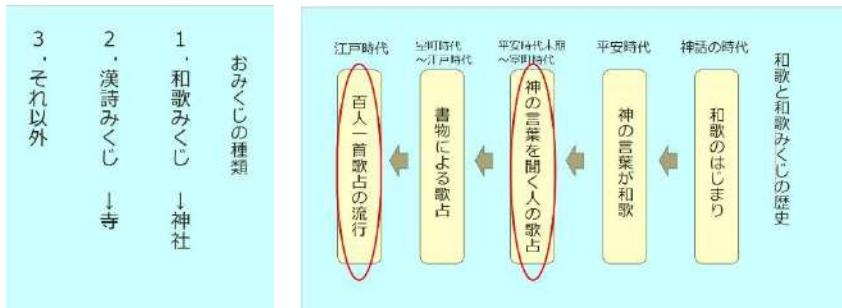
のを授業用にアレンジしたもの。(資料 2)

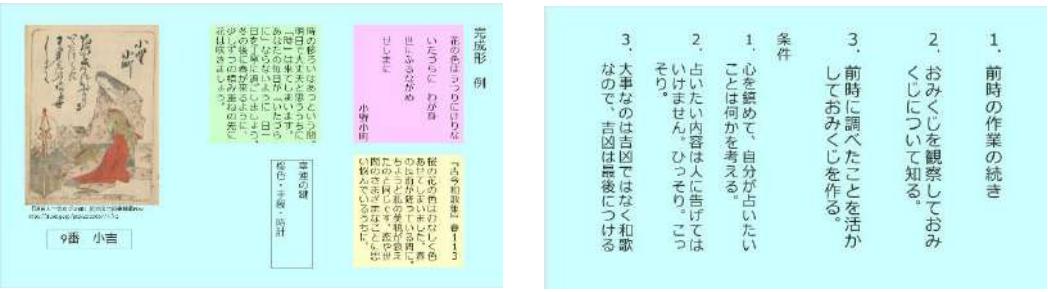
注 3：挿絵は国立国会図書館デジタルコレクション『錦百人一首あづま織』に描かれた作品を使用。

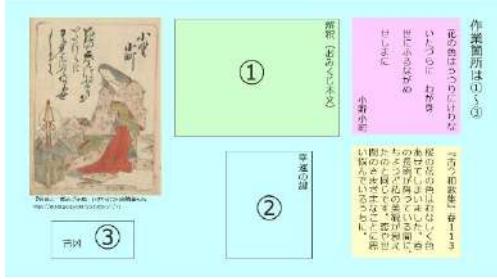
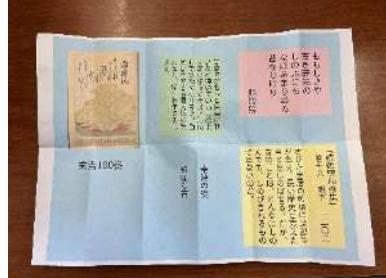
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2533667> (資料 3)

6. 授業の実際

第1時 12/16 (火)	<p>〈生徒の活動「百人一首」とはなにかを知る〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文学史・歴史的な背景について教師の説明を聞く。 2. 1の活動の後、くじを引きそこにかかれた番号の和歌を担当の歌「運命の一首」とする。 3. 百人一首を実際にやってみる。 <p>〈教師の準備・指示〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般的な文学史上の説明。 歌人の男女比・身分・時代・テーマなどをグラフで示す。 ワークシートと共に資料1を配布し、くじを引かせて「運命の一首」を示す。 百人一首を6セット及び読み上げる音声を用意する。 <p>〈板書事項〉</p>
	<p>〈スライド〉『百人一首解剖図鑑』 谷知子 X-knowledge より引用</p>

第2時	<p>〈生徒の活動「運命の一首」の意味を知る・詠み人を知る〉</p> <p>1/13 (火)</p> <ol style="list-style-type: none"> 図書をつかって和歌の意味・作者の背景・語句の意味を調べる。 使用した図書の書誌をとる。 1・2の成果をロイロノートで提出する。 理解した歌をよく味わう。 <p>〈教師の準備・指示〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館に生徒の手許に1冊ずつ行きわたる数の図書を用意してもらう。(注4) 作業の完成例を示す。 次回の授業で実際のおみくじを観察したいので、持ってくるように伝える。(任意)  <p>注4：第2時で使用した図書の収集及びブックリスト作成は学校司書村上恭子氏による。(資料4)</p>
第3時	<p>〈生徒の活動「和歌と和歌みくじの歴史」を知る〉</p> <p>1/15 (木)</p> <ol style="list-style-type: none"> 『古事記』『日本書紀』に見られる「最初の和歌」素戔鳴尊の八雲立つについて知る。 時代の変遷とともに和歌に対する人々の捉え方や位置づけが変化していくことを知る。 江戸時代の出版技術の発展により現代の「おみくじ」に近い形状になっていくことを知る。 おみくじには寺社のルーツによって「和歌みくじ」「漢詩みくじ」があることを学び、実際に持ち寄った「おみくじ」を観察する。 <p>〈教師の準備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明用のスライドの作成 <p>〈スライド〉</p> 

<p>第4時 1/15 (木)</p>	<p>〈生徒の活動「百人一首みくじ」を作る〉(個人作業)</p> <p>1. 「百人一首みくじ」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2時にロイロノートで作成したカードのうち「歌」「現代語訳」を使う。 ・新たに「和歌から受け取るメッセージ」を作る。この時、占いたいこと（観点）をしつかり考えてから和歌に向き合う。観点は（健康・仕事・恋愛・金運などのことを指す） ・「和歌の詠み手の挿絵」を置き、「挿絵」の観察及び、「歌」を玩味して「幸運の鍵」を考える。 ・最後に吉凶を添える。 <p>〈教師の準備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明用のスライドの作成。 ・「和歌の詠み手の挿絵」を準備する。今回は国立国会図書館のデジタルコレクションの『錦百人一首あづま織』の絵を36人分用意した。 ・完成図の例示の作成。 <p>〈スライド〉</p>  <p>1. 前時の作業の続き 2. おみくじを観察しておみくじについて知る。 3. 前時に調べたことを活かしておみくじを作る。</p>
<p>第5時 1/20 (火)</p>	<p>〈生徒の活動「百人一首みくじ」を作る〉(グループ作業)</p> <p>研究授業（2年B組で1月16日に実施）の感想からグループ活動の手応えを得たことから、他のクラスでも実施することとした。</p> <p>1. 百人一首みくじ（その2）を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループのうち、誰かが担当した和歌を1つ選ぶ。 ・和歌が決まったら、その1人が前時で作ったおみくじから、和歌そのものと和歌の現代語訳、『錦百人一首あづま織』の絵のみを残したものをテンプレートとしてロイロノートで他の3人に配布する。 ・自分が占いたいこと（観点）を考えてグループで共有する。この折、観点が重複してもかまわないこととする。 ・前時で一度同じ歌でおみくじを作った生徒も、今度は前時と別の観点で同じ歌を題材におみくじを作る。 <p>2. 作ったおみくじをグループで共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の観点・観点からどのように歌を解釈したか・幸福の鍵・幸福の鍵をそれにした理由を述べること。

	<p>3. 授業の感想をロイロノートで提出する。</p> <p>〈教師の準備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明用のスライドの作成。 テンプレートの例示の作成。 <p>〈スライド〉</p>  
第6時 1/22 (木)	<p>〈作品の共有とふりかえり〉</p> <ol style="list-style-type: none"> おみくじに関する約束事を知る。 子どもたちが作ったおみくじを引く。 じっくり読む。 一連の学習活動を通して学んだことや感想を forms に記入して送信する。 <p>〈教師の準備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> おみくじに関するスライドの作成。 第4時・5時に提出された子どもたちの作品を出し、折っておみくじの状態にしておく。 おみくじを箱に入れる。 forms でアンケートを作成しておく。    <p>※おみくじの装画は2年D組生徒の作品</p>

〈スライド〉

